

「十勝沖地震での土砂災害から学んだこと」

青森県 八戸市立豊崎中学校 1年 ^{なかむら}中村 いぶき

今年の夏はたくさんの自然災害が起きました。6月からの連日30度を超す猛暑、大阪府北部地震、西日本豪雨、台風21号、そしてなお余震の続く北海道胆振東部地震。被災された方々の中には避難所で過ごされた方も多かったと思います。

私の通っている八戸市立豊崎中学校も指定避難所になっています。ですが、土砂災害警戒区域に指定されているため、土砂災害危険時には利用できません。

1968年5月16日に起こった十勝沖地震のときには、裏の山が崩れ、校舎も倒壊しました。それから五十年たった今年、「十勝沖地震五十年防災教室」が学校で行われ、十勝沖地震を体験された地域の方々に当時のお話を伺いました。皆さん、日ごろ学校を応援してくださっている地域学校連携協議会の方々です。

そこでは、四つのお話がありました。

- 一、地震が起こったとき、どうしていたか。
- 二、地震発生から避難まで。
- 三、今思うこと。
- 四、私たち中学生に伝えたいこと。

まず、一つ目です。十勝沖地震が起こったとき、小学生、中学生だった方もいらっしやいました。地震が起こったときは授業を受けていたそうです。

身近に感じた私は、その日のお話を自分自身だったらどうだろうと自分に置き換えながら聞くことにしました。

次に、二つ目です。地震発生時は、下からどんと突き上げるような衝撃があったそうです。机の下にもぐったそうですが、その机ごと教室の中を滑って窓際まで流されたとのことでした。歩いて避難しようにも立つことができず、四つんばいで移動したと聞きました。

その時、すでに土砂災害が始まっていたのです。前日まで降り続いていた大雨のため、地盤が緩くなっていた裏山が崩れたのです。

たくさんの土砂が流れ、木が立ったまま移動していたそうです。

いつ土砂に巻き込まれてもおかしくない状況で避難を余儀なくされ、どれほど怖かったことでしょう。実際に土砂に巻き込まれ、そのまま生き埋めになってしまった人もあったとのこと。それでも避難しなければならぬので、声を掛け合いながら避難したそうです。苦しく大変な時こそ、励まし合い、助け合うことが大切だと感じました。

三つ目です。座談会に来てくださった方々が今になって、当時を振り返って思うことをお話してくださいました。

「日ごろからすぐ避難できるように備えておくこと、大きな地震があったらすぐ避難することも必要である。」と教えていただきました。また、

「あの時は『もう死ぬんだ』と思った。」とおっしゃった方もありました。

「それでも、生きなければならないんだ。」

とも思ったそうです。未経験の恐怖の中でも、生きることをあきらめない気持ちを持ち続けることの大切さを教えてくださいました。

そして、最後に

「このようなことを忘れてはいけないし、また、今後このような地震が万が一起きたら、君たち自身の力でどうにかしなければいけないんだよ。」

とのメッセージをいただきました。

私たちが大人になったら、次の世代に十勝沖地震のことを伝えていきたいと思いました。

平成 30 年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞(事務次官賞)

座談会の後、避難所運営ゲームの体験学習がありました。大人になったら、今度は私たちが地域を支え、災害時には避難所を運営しなければなりません。

ゲームではあらゆるものが足りない中、いろんな人々が、避難所となった学校に殺到し、短時間にどうするか、どんどん決めていかなければならない状況をシミュレーションしました。判断に迷うこと、分からないことがたくさんありました。私たちは、災害に備えてまだまだ災害のことや地域のことを学んでいかなければならないと感じました。

私の学校は避難所ですが、土砂災害警戒区域でもあるため、防災のための備品や備蓄は少し離れた市民サービスセンターに保管してあります。

青森県では、豊崎中学校が安全になり、土砂災害時にも避難所となれるように、学校の裏山に砂防堰堤の工事を計画しています。私たちの農園にも調査のための杭が設置されたり、学校で説明会が行われたりしました。その工事が終われば、土砂災害時にも学校が避難所として利用できるため、運営するときにはそのことも考えなければなりません。

これまで、十勝沖地震という名前は聞いたことがありましたが、私はよく分かっていませんでした。この座談会で、体験した方々の生の声を聞き、土砂災害の時の状態を想像ではありますが、頭の中で映像で思い浮かべることができるようになりました。そして、土砂災害に向けて備えることの大切さを実感できました。

私たちの学校、私たちの住む地域は、豊かな自然に囲まれています。自然は心を癒してくれますが、十勝沖地震がそうだったように、時には牙をむき、土砂災害などで人の命を奪うこともあるのです。かといって、自然を恨んでもどうにもなりません。

そこで暮らす私たちが、自分自身のこととしてしっかり学び、備えておくこと、同じ地域に住む人たちが、自助共助の精神で日ごろからつながり、励まし合い、助け合うことが大切だと五十年前の十勝沖地震は私たちに教えてくれています。

そして、中学生の私たちにも地域のためにできることがあるということも教えてくれました。それは、このことを忘れず、みんなに伝えていくことです。